

令和7年度（2025年度）全国学力・学習状況調査結果報告

令和7年4月実施の「全国学力・学習状況調査」について、本校の調査結果をお知らせいたします。

- 実施された国語・数学・理科に関して【区分及び領域】で概要を示しました。
- 生活習慣や学習環境に関する調査につきましても、顕著なものを取り上げてまとめました。
- 全国学力・学習状況調査 について、国立教育政策研究所ホームページも併せて御覧ください。

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

◇75個の質問から、全国・北海道平均との差が顕著である項目を取り上げています。

本校の概要	調査における課題	改善の方向
<p>平均と比較し良好な回答が多い項目</p> <p>□朝食を毎日食べていますか。</p> <p>□携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。</p> <p>□いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。</p> <p>□総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する等の学習活動に取り組んでいますか。</p> <p>□先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。</p> <p>□国語の勉強は得意ですか。</p>	<p>■自分に良いところがあるかという問いに、肯定的な回答をした生徒が平均よりすこし少ない。</p> <p>■将来の夢や目標を持っていますかという問いに、肯定的な回答をした生徒が平均より少ない。</p> <p>■困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるという回答をした生徒が平均よりすこし少ない。</p> <p>■学校の授業時間以外に、普段（月～金）1日当たりどれくらいの時間、勉強するか（塾などを含む）という問いに、「2時間以上」と回答した生徒は全国平均と比べてすこし少なく、「全くしない」と回答した生徒が平均と比べて多い。</p> <p>■学校の授業時間以外で、PC・タブレットなどのICT機器を勉強のために使っているかという問いに、「全く使っていない」と回答した生徒が平均より多い。</p> <p>■新聞を読んでいる生徒は全国平均よりすこし少なく、全く読まないという生徒が8割以上で、平均よりすこし多い。</p>	<p>◇学校行事や学級活動や部活動等からも自己肯定感や自己有用感をもてるような指導の工夫を今後も継続する。また、学習活動や行事などの諸活動のバランスを大切にし、充実した学校生活となるよう工夫する。</p> <p>◇分からないこと・困ったことを教師に質問・相談し、生徒自身が安心できる学校生活を送れるよう、日常的なコミュニケーションを大切にし、学校として相談活動等の環境や機会を作る。</p> <p>◇日常的に家庭での学習を振り返る機会を設け、学習習慣の定着を図る。</p> <p>◇各教科や総合的な学習で、ICTを活用しつつ学習したことを生かして自分の考えをまとめる活動を今まで以上に取り入れ、互いにまとめたことを発表して共有する活動を取り入れる。</p> <p>◇図書館などを活用して、新聞を読む機会を設け、社会を知る手段などの意義の啓発に努める。</p> <p>◇ご家庭ではさっぽろっ子「学びのススメ」を参考に御指導ください。</p>

【中学校国語】2025年度 学力調査の結果の概要及び改善の方向等について

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【領域】

- 「話すこと・聞くこと」
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- 「書くこと」
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。
- 「読むこと」
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。
- ・いずれの領域においても、記述式の問題における無解答率が高い傾向がみられる。

なお、以下の内容

- 「情報の扱い方に関する事項」
- 「我が国の言語文化に関する事項」
・これらに関しては、本年度は該当する設問がなかった。

■[話すこと・聞くこと]
・話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめること。

■[書くこと]
・表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

■[読むこと]
・目的に応じて必要な情報に着目して要約すること。

■[言葉の特徴]
・文脈に即して漢字を正しく書くこと。

◇互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動の充実。

◇短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く活動の充実。

◇論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする活動の充実。

分類	区分	全国との比較
学習指導要領の内容	言葉の特徴や使い方に関する事項	○
	情報の扱い方に関する事項	—
	我が国の言語文化に関する事項	—
	話すこと・聞くこと	○
	書くこと	○
問題形式	読むこと	○
	選択式	○
	短答式	△
全体	記述式	○
		○

※+3.1%以上=上回っている ±3%=ほぼ同程度 -3.1%以下=下回っている
= ◎ で表示 = ○ で表示 = △ で表示
しています。

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【領域】
「数と式」
 ◎平均正答率は、全国平均を上回っている。
 ・「事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる」では、無回答率が全国平均より高い。

「図形」
 ◎平均正答率は、全国平均を上回っている。
 ・「多角形の外角の意味を理解している」では、全国平均を大きく上回っている。
 ・「統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができる」では、全国平均を上回っている。

「関数」
 ◎平均正答率は、全国平均を上回っている。
 ・「1次関数について、変化の割合を基にxの増加量に対するyの増加量を求めることができる」では、全国平均を大きく上回っている。
 ・「事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができる」では、全国平均を上回っている。

「データの活用」
 ○平均正答率は、全国平均とほぼ同程度ですが、やや上回っている。
 ・「必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる」では、全国平均を大きく上回っている。

■[数と式]
 整数の性質について反例をあげて説明すること。

■[図形]
 図形の証明について見通しをもって構想し理解すること。

■[関数]
 表やグラフから情報を読み取ったうえで数学的に説明すること。

■[データの活用]
 不確定な事象の確率に関する知識・技能がもう一歩身につけていないこと。

◇知識・技能を活用して数学的に考える問題や授業の充実。

◇構想に基づいて証明する場面において、筋道立てて考え、自分の考えを表現する活動の充実。

◇日常生活や社会の事象における問題の解決に数学を活用する学習場面の設定。

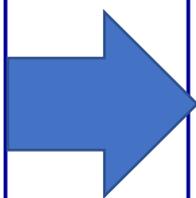
◇既習内容を振り返り、系統性を意識した授業の充実。

分類	区分	全国との比較
学習指導要領の領域	数と式	◎
	図形	◎
	関数	◎
	データの活用	○
問題形式	選択式	◎
	短答式	◎
	記述式	○
全体		◎

+3.1%以上=上回っている ±3%=ほぼ同程度 -3.1%以下%=下回っている
 = ◎ で表示 = ○ で表示 = △ で表示
 しています。

今回の調査における本校の課題

- エネルギーに関する知識及び技能を活用し、電熱線で水を温める電気回路について、回路全体の抵抗の大きさや、早く水が温まる装置を選択する問題で、実験の条件を適切に設定し、結果を予想し比較対照して考察すること。
- 化学変化に関する知識及び技能を活用して、「理科の実験では水道水ではなく精製水を使う理由を解決するための課題を記述する」および「探究過程におけるあなたの振り返りを記述する」といった科学的な根拠をもとに理由を説明すること。
- 生物の動画を見てから呼吸を行う生物をすべて選択するといった、観察結果の情報を整理し、順序立てて科学的な根拠をもとに知識を活用すること。
- 大地に関する言い伝えが科学的に正しいと判断できる理由を、地層に着目して説明できるよう、身近な事象や地域の自然を題材にし、科学的な見方を身に付け、思考力を高めること。



改善の方向

- 実験の条件を整理し、結果を理由と結びつけて考察する活動を充実。
- 見えないものをイメージし微視的に事象をとらえたうえで、実験結果を言葉やモデルで説明する学習活動の充実。
- 観察結果から原因を考え、ほかの生物との共通点を見だし知識が活用できるような学習活動の充実。
- 時間的・空間的な見方を働かせ、身近な題材について生活の中での疑問や気づきを科学的に表現する活動の充実。